

第4回

**記録して感じたことを他人に
説明するのが発表である**

日々の活動を記録していると、感動が蘇り、同時に疑問が湧き上がってきます。「今日の教室は、どうして盛り上がったのだろう」。逆に、失望感を感じることもあるでしょう。「今日は、うまくできない人が多かった。どこが難しかったのだろう」

発表は、感動や失望から生じた疑問を他の人たちに一緒に考えてもらいたいというメッセージを送る機会です。自分の力で問題解決を図ることは基本ですが、それだけでは限界があります。他の人の力も大いに借りましょう。発表すると、同じような体験をした人たちが助言や情報提供をしてくれます。自分一人では気がつかなかった点を指摘してもらえます。

まず、自分の主張、他の人と共有したいメッセージをはっきりさせることが重要です。言いたいことを、短く簡潔にまとめることです。長ったらしい説

日本公衆衛生学会理事・評議員
(一財)宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長

小島 光洋

明では、かえって分かりにくくなります。普段から自分の記録をまとめるときに、短い要約を作るようにしておくといよいでしょう。「100字以内で」というように、要約を作るときの基準を決めておくことをお勧めします。たとえば、「参加者同士のコミュニケーションを図るセッションを入れてみた。予想どおり盛り上がりを感じた」(44字)となります。「期待に反して盛り上がりを感じられなかった」(20字)場合には、「問題は、セッションの内容にあるのか、入れたタイミングにあるのか」(31字)という問題提起が加わるでしょう。

慣れないうちは要約を作るのに、苦労すると思います。しかし、要約を作っておくと、それがそのまま発表のタイトルや内容の骨格になります。そして何よりも大事なことは、要約を作ることによって発表したいという気持ちが強く湧き上がってくることです。